

書

香

大谷大学 図書館・博物館報

第22号 図書館・博物館報
創刊号

2005年3月18日
大谷大学図書館・博物館 発行
〒603-8143 京都市北区小山上総町
TEL. 075-411-8123

目次

機能統合……………	1	『坂東本・教行信証』が問いかけること ……	12
白隠の「天神経」……………	2	『妙正寺文庫』について	
貴重資料紹介 (18)		—小栗栖香頂関係資料追加寄贈の報告—	15
「神田家記録」と神田寿海……………	4	世界“知的”遺産—西谷文庫……………	18
博物館特別展記念講演会講演録		2004年度大谷大学博物館学課程……………	19
(1) 京都の町衆と神田家……………	6	図書館・博物館日誌……………	32
(2) 神田コレクションの魅力……………	9		

機能統合

真宗総合学術センター長 沙加戸弘 (教授・国文学)

大谷大学にとっては永年の夢であった開館から一年余、関係各位の御尽力によって、ようやく大谷大学博物館は軌道に乗り始めた。

そもそも大谷大学の博物館は、昭和62年4月大谷大学博物館学課程の設置に伴い、具体的に構想され形をとったものであるが、博物館という働きそのものは、従来から大谷大学図書館が荷ってきたものである。

寛文5年に東本願寺の学寮として創立され、明治34年に近代化を遂げて百年余、数多の先達の願いのもとに大谷大学は三百数十年の伝統を有する。学寮である以上、当初より図書館の働きを持っていたこと論を俣たない。

その三百数十年の歩みの中で蓄積され受け継がれてきた資料の中には、版木・古印・古硯・封泥・経帙等、所謂博物館資料も夥しく存在する。

要するに、大谷大学に博物館という名称や空間は確かに今まで存在しなかったが、博物館という働きがなかったわけではない。

そのような状況から今回、真宗総合学術センター・響流館の中に、場として設置することを得たのである。

大谷大学において、図書館と博物館は一体のものである。博物館の常識から言えば、そ

れはあり得ないかも知れない。図書館の考え方から言っても、それは難しいあり方であろう。収集・保管・公開、調査・研究・保存・展観という基本も微妙にずれる。

しかしながら、大谷大学には大谷大学としての図書館・博物館のあり方が模索されてしかるべきであると考え。まして、真宗という伝統を考える責任を荷った博物館である。真宗は生活の中に開かれてきた教えであり、生活そのものと言っても過言ではない。博物館、図書館という、固定された考え方と運用は、真宗という生活を総合的に明らかにすることには決してならないであろう。

そのようなあり方の一つの表徴として、館報を一体化することで意見の一致を見た。従来、大谷大学博物館学課程には「課程年報」があり、図書館からは「図書館報 書香」が刊行されてきた。今回その両報を一体とし、名称は従前の「書香」を受け継ぎ、図書館・博物館報として刊行することとなったのである。当然のことながら、昨年までの博物館学課程年報の内容も受け継ぐ独特のものとなった。

この館報の刊行を以て、真宗総合学術センターの十全な稼働に向けての一步としたい。